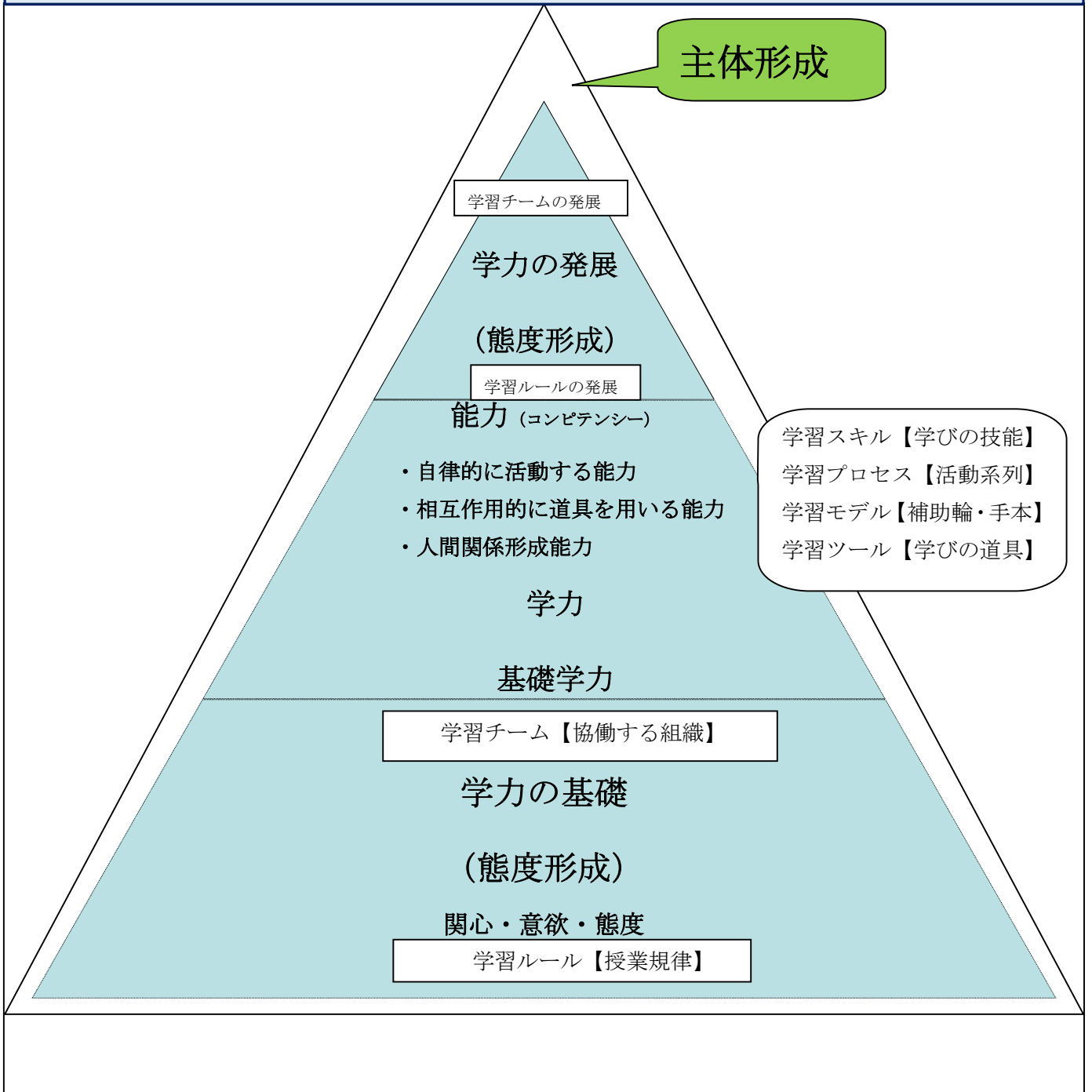


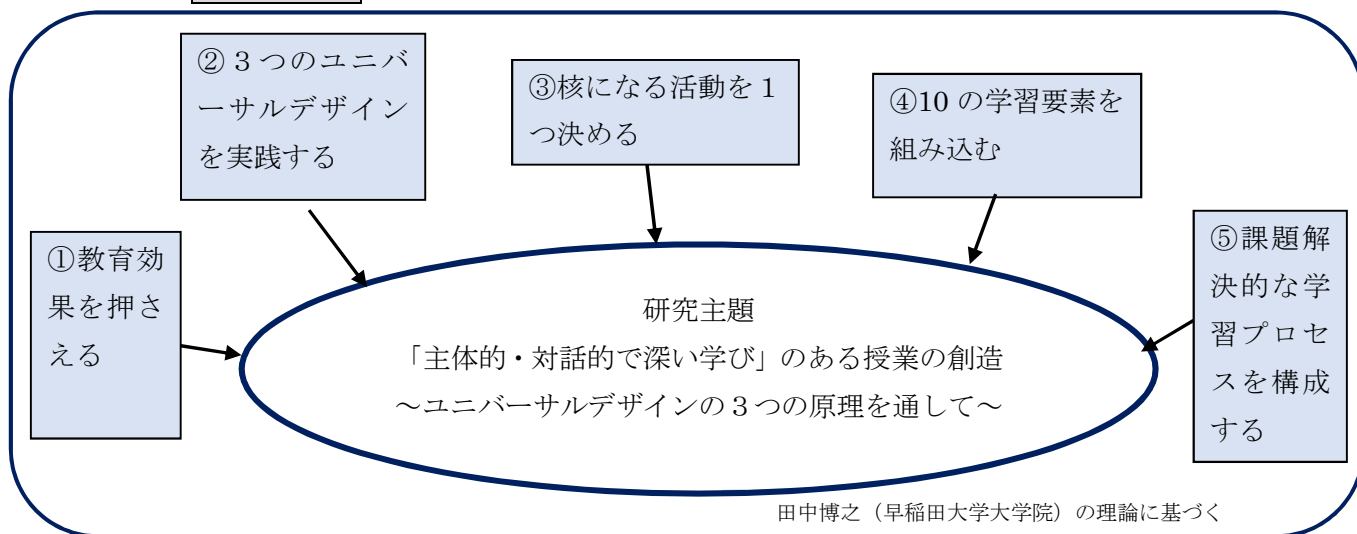
主体的・対話的で深い学びの実現
～資質・能力を育む学びの在り方～

【学校教育目標】 「夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成」
【校訓】 「響き合う二中っ子」



学校として育成したい資質・能力の整理

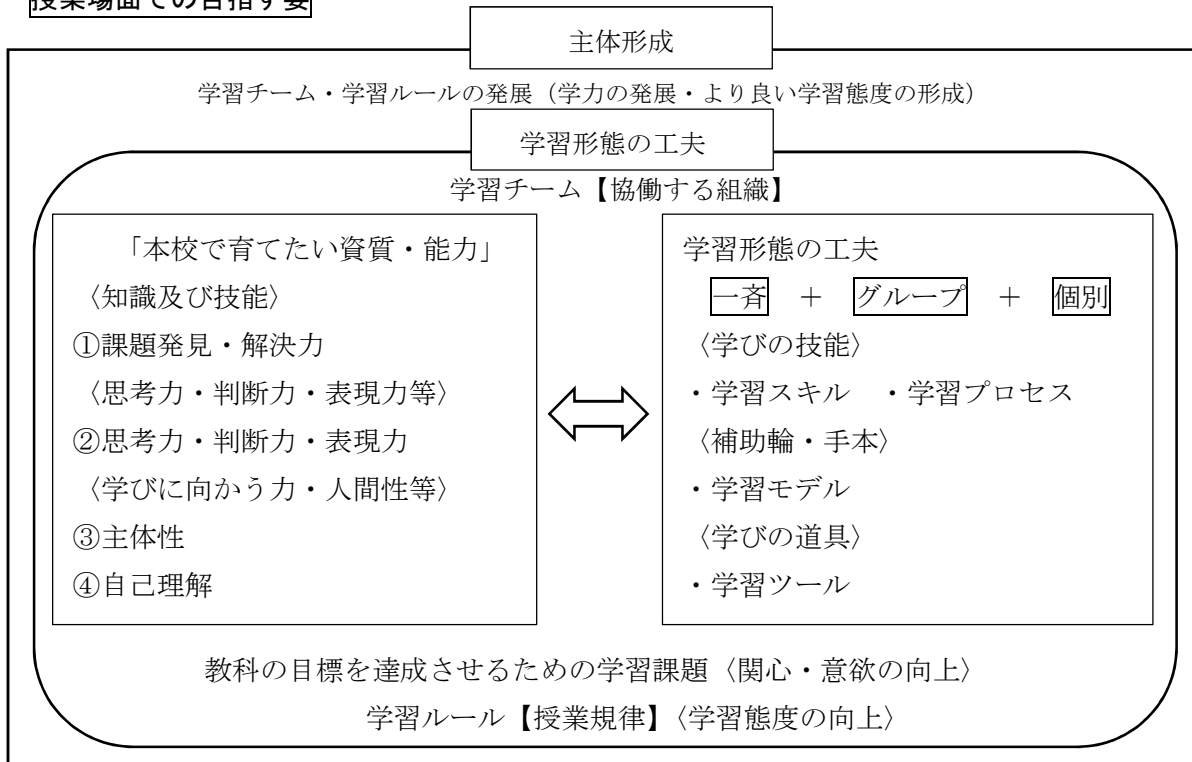
(1). 実践ポイント



(2). 学校として育成したい資質・能力が育成された子どもの姿の系統的整理について

新学習指導要領 3つの柱	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
	本校で育てたい 資質・能力	課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性	自己理解	
第1学年	どうすればこの問題が解けるだろうか、いろいろ考えを出すことができる。	資料やデータにもとづいて自分でわけや理由を深く考えることができる。	自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習することができる。	自分の学習のしかたを反省し、より良い学習のしかたを考えて実践することができる。		
第2学年	新しいことを学ぶときに、これまでに知っていることを使うことができる。	どんな方法で学ぼうか、どんな発表をしようかなど、自分の考えで決めることができる。	グループやクラスでの話し合いの時に、自分の考えや意見を積極的に出すことができる。	自分に足りない力は何か、もっとどんな力をつければよいかといつも考えることができる。		
第3学年	自分でアンケートやインタビュー、現地調査などをして調べることができる。	時間をむだにしないように、自分で時間を決めたり計ったりして学ぶことができる。	グループや自分で決めた計画にそって、すすんで調べたり作ったり発表することができる。	自分の得意なことを伸ばし、苦手なことをなくすよう努力することができる。		

授業場面での目指す姿



「主体的・対話的で深い学び」を成立させるユニバーサルデザインの3つの原理 (田中博之)

	学習モデルの活用 (深い学び)	認め合いのある学び (対話的な学び)	学習の可視化 (主体的な学び)
ねらい	子どもたちの思考・判断・表現を支援する補助論としての話し方、書き方、考え方、評価の仕方などのモデルを主体的な課題解決のために活用できるようにする。	子どもたちが班や学級全体で協力して課題を解決する中で、支持的な学級風土を育て、友だちのよさや個性をほめたり尊重したりする態度を育むようにする。	①学習モデルの可視化、②メタ認知過程の可視化、③グループでの役割分担の可視化という3項目と、学習の課題や過程、資料、評価の規準と方法などをわかりやすく示す。
キーワード	・補助輪の提供と活用 ・お手本や模範例の提供と活用 ・技、コツ、秘訣、アイテムの活用	・学級づくり ・学級力の向上 ・支持的な学級風土づくり ・周りの子の成長	・学習の課題と過程の可視化 ・学習モデルの可視化 ・思考過程の可視化によるメタ認知
方法	・話型、文型、思考型 ・創作や問題解決の流れ図 ・学習の見通しの板書 ・完成イメージの提供 ・ヒントカード ・スモールステップでの活動の流れ	・ほめほめカードやほめほめコメント、相互評価会 ・反応のある授業 ・拍手が起きる授業 ・要支援の子と周りの子の成長 ・支持的な風土のある学級づくり	・学習モデルの提示 ・学習過程や思考過程の揭示 ・役割分担の明確化 ・全体の俯瞰、図式化、モデル化 ・「いまここ矢印」の表示 ・写真やビデオの活用 ・学習ポートフォリオの作成